



つしん日和

第84号

2023.6

企業紹介



UGUISU

社会福祉法人鶯園



社会福祉法人鶯園は1973年に高齢者介護施設として設立。現在では津山市内を中心に県内と兵庫県に高齢者・障がい者福祉施設などを展開している。創立50周年にあたる2023年4月1日に社会福祉法人千寿福社会を同法人に統合し、事業所数85、従業員数1600人となっている。

節目である50周年から新たな一步を踏み出し、地域を、そして、ひとりひとりを支え続けるという社会福祉法人の使命を全うし、地域福祉へさらなる貢献を誓う。

社会福祉法人鶯園 理事長 挨拶

鶯園は昭和48年の設立ですが、前理事長であります、父、故小林敏隆(令和4年10月11日逝去)が開設の準備を始めたのは昭和45年頃、私が10歳の頃でした。

父は、当時、津山市にあります精神科病院の看護助手をして働いておりました。

その病院に入院している方が、野外活動だったのでしょうか、父と一緒にうちの田んぼで田植えや稲刈りをしておられ、私も一緒にお昼を食べた子どもの頃の記憶が残っています。

父は、その時に関わった寛解者の方々のために救護施設をつくりたいと考え、岡山県に何度も相談に行きましたが、残念ながら設立には至りませんでした。

しかし、このことをきっかけに鶯園創設の準備を始めます。

それが昭和45年、父が35歳くらいの頃でした。

父は絶えず、額に汗して働いている人でしたが、そんな父が1年間自宅に籠もって社会福祉法人の設立準備の書類作りをしていたことを今でもよく覚えています。その努力が実り、法人を設立できたのが昭和48年、今年で創立50年を迎えました。

50年前に始めた事業がこのように成長できたのは、ふたつの力によるものと考えております。

ひとつは、父の力ですが、決して父ひとりの力ではなく、ひとりではできなかったであろう多くのことが、いろいろな人と出会い、つながり、支えられて実現できた、と思っておりますし、多くの方に力を貸してもらえ人間味が、父の魅力であったと思っております。

そして、もうひとつは、職員の力です。

社会福祉事業は、物を作っている訳でも、物を売っているのでも、ありません。

ひとりひとりの職員が、人に対して一生懸命、接することがすべてです。職員の努力により、今日の法人があります。

これからも合併の目的であります、長く続く人口減少の中にあっても、地域を支え続けるという社会福祉法人の使命を全うして参る所存です。

これまで社会福祉法人鶯園、千寿福社会、そして、父を支えていただいた皆さまに、父に代わりまして、あらためてお礼を申し上げます。

ありがとうございました。

社会福祉法人 鶯園 理事長 小林和彦



企業紹介

社会福祉法人鶯園 フリーズドライ工房まにわ



「フリーズドライ工房まにわ」は2021年8月に開所した就労継続支援B型の事業所。社会福祉法人鶯園が運営しており、真空凍結乾燥機・X線異物検出装置など、充実した設備のもと、米製品などの保存食作成やフリーズドライ製品の加工の請負を行っている。

フリーズドライ製法は凍結させた食品を真空状態に置き、水分を昇華させ乾燥させる技術で食品の味や香り、栄養素が残りやすい。フリーズドライ製法で生産した食品は長期保存が可能な上、軽量なため災害備蓄用の食品やアウトドア向けの食品、また日常の食生活においても手軽な食品として利用できる。

同施設では委託者のオリジナル製品のOEMでのフリーズドライ加工も行っており、固体食品であれば100~150kg液体であれば約200Lまで、1回の乾燥で処理することができる。製品開発など、事前に試験機での凍結乾燥の最適条件を調べ、実機で生産する体制を整えている。

様々なフリーズドライ製品の開発・生産を通じ、フードロスの解消など、持続可能な社会の実現を推進していく。



精米



計量（小分け）



X線異物検出

POINT



フリーズドライ
ごはん(5人前)

お湯（お水）を加えて混ぜるだけで白飯ができあがります。災害用の保存食としてだけでなく、登山やキャンプなどのアウトドアでのお食事としても便利に利用できます。



(フリーズドライごはん)

フリーズドライ製品 [製造の流れ]

下処理



必要に応じて下処理、熱処理などを行います。

凍結乾燥



真空凍結乾燥機を使い、フリーズドライ加工を行います。

小分け袋詰め



ご希望に応じて、小分けにし袋詰め作業を行います。

〒719-3202 岡山県真庭市中島386-1

TEL 0867-44-1881 FAX 0867-44-1882 URL <https://senju-sou/maniwa-freezedry/>

TOPIX

「お取引先様との懇親の夕べ特別講演会」を開催しました。



当金庫は2023年4月25日に津山鶴山ホテルにおいて、「第10回 お取引先との懇親の夕べ特別講演会」を開催しました。本講演会は日本フルハップおよびつしん経営者協議会に協賛いただき、当金庫お取引先様等、約230名をお招きしました。

講演会の講師として、株式会社日本総合研究所 主席研究員 藻谷浩介様をお招きし、“アフターコロナの地方創生”と題して、「“地産地消”ではなく“地消地産”をどう進めるか、“バックキャストिंग”で考える」など、クイズや笑いを交えながら、軽快にお話しいただきました。

また、講演会終了後には4年ぶりの交流会を開催し、多くの方にご参加いただきました。講師の藻谷様にも、交流会にご参加いただき、とても有意義な時間となりました。

講師プロフィール

山口県生まれの58歳。1988年東京大学法学部卒業。1994年米国NY市コロンビア大学経営大学院卒業。1988年(株)日本政策投資銀行入行。2012年より(株)日本総合研究所 主席研究員。北海道大学公共政策大学院等多数の大学客員教授のほか、理事・顧問を務める団体多数。平成合併前の全3,200市町村、海外117ヶ国を自費で訪問し、地域特性を多面的に把握。地域振興、人口成熟問題、観光振興、コロナ対応などに関し研究・著作・講演を行う。著書にデフレの正体、里山資本主義(共にKADOKAWA)、世界まちかど地政学Next(文芸春秋)など。近著(共著)に進化する里山資本主義(Japan Times)、東京脱出論(ブックマン社)。

TOPIX

「新聞の読み方等に関する研修」を開催しました。



研修の様子

当金庫は、入庫1～3年目の若手職員を対象とした「新聞の読み方等に関する研修」（全3回）を行いました。山陽新聞社の瀬尾由紀子様をお招きし、お取引先様との会話につながるニュースの読み方や伝わる文章の書き方等を勉強しました。

参加した職員からは「新聞を読むときのポイントがわかって良かった。同じ時間で読んでいるのに読んだ後の情報量が格段に多くなった。」「国内外や地域の動きを知ること、物事の捉え方や判断力を養えると感じた。お取引先との日常会話に早速活かしたい。」との声が聞かれました。

美作の国 雑感 理事長 松岡 裕司 ～皆さま方のブランド力とは？～



今回は、皆さま方の事業に大切なブランド戦略についてお話ししたいと思います。

5年ほど前、焼き肉のタレと言えば「黄金の味」と言うほど、私たちが真っ先に思いつく商品を製造しているエバラ食品工業(株)の前社長宮崎氏から同社のブランド戦略についてお話をお伺いする貴重な機会がありました。同社は、29年前に津山中核工業団地に西日本をカバーする生産拠点をオープンさせ、地元小学校の社会科副読本に「地元のたれ工場」として掲載されるほどすっかり地域に根付いています。

宮崎前社長曰く、「消費者変化にスピーディーに対応していくのは勿論ですが、他社に絶対に真似されない究極の差別化とは何か？真の競争力の源泉とは何か？と言うと、それはブランド力と社員力の2つを磨くしかありません。お客さまの頭の中に蓄積される確たる評判、そしてエバラブランドに高い誇りを持ち考え抜く、実行力ある社員、寄りかかる社員ではなくお客さまに寄り添う社員、AI時代を勝ち抜くには社員の人間性を磨くことが大切です。」

それでは、皆さんも自社ブランド力のポジション評価を4つの切り口で行ってみませんか？①親しみ、親近感、共感されているか？（フレンドリー）、②良く利用されているか？お客さまに役に立ち、品質が優れているか？（コンビニエント）、③ステイタスが高いか？オンリーワンの魅力、際立った個性があるか？（アウトスタンディング）、④注目され、旬な存在であるか？変化の激しい時代を切り開き、勢いがあるか？（イノベティブ）。評価の後は、弱みの計画的な解決、強みの更なる強化に取り組むことが課題となりますね。

さて、問題の我が金庫です。現在、店頭やATMコーナーに「作州地域に信用金庫があってよかったね！一信用金庫は地域とともに成長する金融機関だよ！」のキャッチコピーで、知って納得、相互扶助を目的とした信用金庫の4つの特徴をポスター掲示しています。どうかご覧になって頂き、上記ブランド力4つの評価ポイントからみて、果たして津山信用金庫はどこに位置づけられるのでしょうか？はい！フレンドリーさについては自信があります。しかしながら、皆様方から真に選んで頂けるためには、ブランド力と職員力を更にさらに磨いていかねばなりません。

CHECK

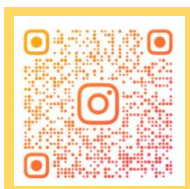
公式Instagram

つやつや

<津山信用金庫>

フォロー&いいね
お待ちしております！

Instagram



LINE



LINEの
お友達登録も
お願いします！



※つしん日和に関するご意見・お問い合わせは
当金庫HP「お客さまの声」からお願いいたします。

編集発行:事業所応援部

TEL:0868(22)4136 FAX:0868(22)8637

MAIL:s1735017@facetoface.ne.jp

(つしん日和第84号:2023年5月25日発行)